



新年の幕開けを飾る”新世界“
 大阪が誇るマエストロ 瀬山×俊英ピアニスト 外山
 新世代最強タッグ再び!

「指揮」瀬山智博
 「ピアノ」外山啓介
 「管弦楽」関西フィルハーモニー管弦楽団

21世紀の新世界



ドヴォルザーク…スラヴ舞曲 第1番 八長調 op.46-1

ラフマニノフ…ピアノ協奏曲 第2番 八短調 op.18

ドヴォルザーク…交響曲 第9番 八短調 「新世界より」 op.95

©Yuji Hori

2018 1/6 (土) 2:00pm開演 (1:00pm開場)

A 5,500円 B 4,500円 C 3,000円(消費税込)

ザ・シンフォニーホール

主催/朝日友の会、朝日放送 後援/朝日新聞社 協力/ザ・シンフォニーホール

7/23(日)発売

ご予約

- アスク プレイガイド 06-6222-1145 [10:00~17:30(土日祝定休)]
- ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [10:00~18:00(火曜定休)]
- チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:336-270]
- ローソンチケット 0570-000-407 [Lコード:54156]
- CNプレイガイド 0570-08-9990
- e+(イープラス) <http://eplus.jp/> (パソコン・携帯)

■ABCぴあ(webで予約・購入)

ABCぴあ 検索

<http://abc-ticket.pia.jp/>

座席選択が可能! 24時間購入できる!
 クレジット決済も可能!!
 メルマガで優先予約をご案内!!
 1度登録すると次回予約が簡単!!



お問い合わせ

ABCチケットインフォメーション(朝日放送内) 06-6453-6000
 [平日10:00~17:30] ※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。

ABCクラシックガイドのホームページ
<https://www.asahi.co.jp/symphony/>

朝日放送主催コンサート等のイベント情報をご覧いただけます。

※未就学児童のご入場はお断りいたします。※出演者、曲目、曲順はやむを得ない事情により一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。

©s.yamamoto



21世紀の新世界

年末は「第九」、新年はこの「新世界」を聴かないと1年が始まらない!? ザ・シンフォニーホール新春の風物詩となった人気コンサート。奇しくもベートーヴェンと同じ9番目にして最後の交響曲となったドヴォルザークの傑作「新世界交響曲」。遠くアメリカから故郷ボヘミアを想う心情が表現されたこの曲は、第2楽章の「家路」のメロディにさしかかると胸に熱いものが込み上げてきます。

今回、タクトを握る大阪が誇るマエストロ瀬山智博さん。前回シリーズ初登場にして、情感たっぷりに歌うように指揮をされる姿が印象的でしたが、ウィーン国立音楽大学を卒業後、オーストリア、スイス、ドイツなどの歌劇場で次々とデビューを果たし、本場ヨーロッパで経験を重ねているマエストロだからこそ表現できる音楽の楽しさがあります。今年はどうな新世界=ニューワールドに誘ってくれるのでしょうか。

そしてもう1人の主演、日本を代表するピアニスト外山啓介さん。前回「瀬山×外山」初の共演で、次代を担う若き才能に会場が熱気に包まれました。再びタッグを組んでの選曲は、ロシアの作曲家ラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」。4月に現役引退された浅田真央さんのスケート人生とオーバーラップされる方も多いかもかもしれません。新年の幕開けに相応しいドラマティックな演奏にどうぞご期待ください!

[指揮] 瀬山智博 Tomohiro Seyama, conductor

1979年大阪府豊中市生まれ。大阪音楽大学ピアノ科、ウィーン国立音楽大学指揮科卒業。06年イタリアのシエナ・キジアーナ音楽院オーケストラ指揮のディプロマを取得。ウィーン留学中には楽友協会合唱団メンバーとして研鑽を積む。08年ドイツのアーヘン歌劇場のコレペティートルとして活動。翌年にはウィーンのシェーンブルン宮殿歌劇場でモーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」を指揮。その後、オーストリアのブレゲンツ音楽祭やグラフェネック音楽祭、トリノ王立歌劇場のアシスタントなどを経て、16年のシーズンはドイツ・マグデブルグ歌劇場のカペルマイスター(専属指揮者)として活動。ピゼーの「カルメン」、ニコライ「ウィンザーの陽気な女房たち」、ロルツィングの「密猟者」など多数の公演を指揮。同年ドイツのデッサウ市ザクセン・アンハルト州立歌劇場でオペラガラコンサートを指揮、またスイスのヴィンタートゥール歌劇場でオッフェンバッハの「バリの生活」を指揮した。これまでに指揮を湯浅勇治、小澤征爾、レオポルト・ハーガー、ウーロシュ・ライオヴィッチ、ファビオ・ルイジ各氏に師事。シカゴのゲオルグ・ショルティ国際指揮者コンクールセミファイナリスト、プザンソン国際指揮者コンクールファイナリスト。



[ピアノ] 外山啓介 Keisuke Toyama, piano

札幌市出身。2004年、第73回日本音楽コンクール第1位。東京藝術大学卒業後ドイツ(ハノーファー音楽演劇大学)留学を経て、11年東京藝術大学大学院を修了。洗足学園音楽大学非常勤講師。07年『CHOPIN: HEROIC』でCDデビュー、サントリーホールをはじめ各地で行われたデビュー・リサイタルが完売となる。その後08年『インプレッションズ』、09年『ラフマニノフ』、10年『幻想ポロネーズ』と毎年新作CDを発表し、11年には初のベスト盤をリリース。13年のCD『展覧会の絵』は「レコード芸術」誌特選盤に選出された。14年、映画『砂の器』のテーマ曲「宿命」を東京・大阪にて演奏(ライブ録音CD発売)。15年はCD『ショパン: パラード全集』をリリース。16年のベルリン交響楽団日本ツアーにソリストとして参加。17年はデビュー10周年記念ツアーを約20か所で開催。全国各地でのリサイタル・ツアーを毎年実施、主要オーケストラとの共演も多数あり、その繊細で色彩感豊かな独特の音色を持つ演奏は、各方面から高い評価を得ている。最新CDは2017年発売の『MY FAVORITES』。

外山啓介オフィシャルサイト <http://www.keisuke-toyama.com>



関西フィルハーモニー管弦楽団 Kansai Philharmonic Orchestra

1970年発足。2003年NPO法人化、2014年認定NPO法人化。関西を代表する楽団の一つ。世界的ヴァイオリニストでもあるオーギュスタン・デュメイは08年より首席客演指揮者を務め、11年より楽団史上初の音楽監督に就任。藤岡幸夫は00年より正指揮者を務め、07年より首席指揮者に就任。飯守泰次郎は01年より常任指揮者を務め、11年桂冠名誉指揮者に就任。『ヒューマニズム』をテーマに、聴衆へ勇気と感動を与える活動を展開。地域密着の重視など、明確なビジョンで挑戦を続ける個性派楽団として好評を博している。14年10月よりスタートしたBS日本の音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」(毎週月曜夜11時)に藤岡幸夫と共に出演中。15年5月から6月にかけては、スイス・ドイツ・イタリアの3カ国5都市を巡る楽団初のヨーロッパツアー(合計5公演)を開催し、各地で大きな注目を集めた。オフィシャル・ホームページ <http://www.kansaiphil.jp/>

